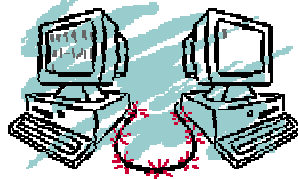


「私たちの街のホームページ」と コミュニティ・ビジネス

—地域のホームページの立ち上げを考える—



1. 街のホームページ作成にいたるまで

- 定年後の生活信条として

一つには「生涯現役」

二つには「地域社会への貢献」

を心がけようと決めておりました。



- 地域社会への貢献の仕方にはいろいろありますが、自分
が出来るのは「地域のITリテラシーの向上へのお役立ち」
しかなく、自分が会社や趣味の世界で培ったIT知識や経
験を社会のために役立てられればと考えておりました。
- SITA町田会や「アクティブSITA」の活動もこの信条を具現
するためのものと考えております。

2. 懸賞企画の募集

- 地域活動にもいろいろありますが、最も身近な地域社会(町内会)との係わりを考えていた時に、意外と早くその機会がやってきました。

- 私の住む街で「懸賞企画」を募集したのです。

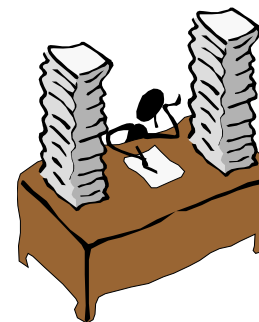
あなたならどう使いますか？

『つくし野ふれあい基金』

—ふれあい基金を有効に使う企画案を募集しています—

- その趣旨は・・・

「住民の福祉・文化・環境の向上と相互の“ふれあい”と親睦の増進のため」の町内会基金の有効活用の企画を募集したのです。



3. 懸賞企画への応募(1)

- 募集のチラシの中に「ITを活用して・・・」などの文字も目の中に飛び込んできました。
- 私たちの街のホームページを創って
 1. ふれあい増進のツールにしよう！
 2. 地域の情報発信基地にしよう！



このテーマでの企画案作成を決意しました。

- 地域のHP作成となると地域での情報や知識がないと作れない！
なにせ！地域への参加を避けてきた私です。これは大変難しいことでした。

4. 懸賞企画への応募(2)



- 地域の情報や知識を得るために、ほとんど足を運んだことのない「地域センター」の訪問を繰り返しました。
- まず、ビックリしたのはサークル・同好会のスケジュールがいつも黒板いっぱい書き込まれていることでした。恐らくは40位のサークルがあるのではないのでしょうか？
- 構想は7月の段階から少しづつ考えたり、いろいろな方にアドバイスを頂いたりしておりましたが、10月末の締め切りが近づいてもなかなか進まない。
- 最後の1週間に迫ったところで、これは「**放棄するわけにはいかない！**」と自分に言い聞かせて徹夜に近い作業で完成と相成ったわけです。
- **これで自らの生活信条を貫くことが出来た！**

「つくし野ふれあいネット」創設 (ホームページ) についての企画書

1. 「つくし野ふれあいネット」の基本的な考え方
2. 「つくし野ふれあいネット」内容
3. 「つくし野ふれあいネット」かかる資金について

資料: ホームページ・トップ見本

ホームページの見本 CD-ROM



「つくし野ふれあいネット」の基本的な考え方

- (1) 「つくし野ふれあいネット」の創設によって、25年前の街造りのテーマであった「コミュニティ(ふれあい)のある街」をとり戻す。
- (2) 「つくし野ふれあいネット」を地域の**情報発信基地**と位置づけ、情報の提供を行って行く。
- (3) 地域のITリテラシー向上や住民への平等性の観点から「**ネット・プラザ**」を設けて、インターネットの見方やメールのやりとりの仕方の指導する。

(1) コミュニティある街造り

- ① ホームページはふれあい増進のための単なる入口であり、ツールです。この入口から入って真のふれあいの輪を広げて行くことがホームページ作成の意義です。
- ② いろいろな世代のそれぞれのふれあいがありますが、世代を超えてのふれあいが少なくなっている。HPは世代を超えたふれあいを実現してくれる。
 - ・サークル、少年少女のスポーツチームHP
 - ・学校や幼稚園のHP
- ③ 子供やお年寄りにやさしいホームページ作りを実現する。
 - ・バーチャル生協



(2) 情報発信基地の役割

① 電子回覧板

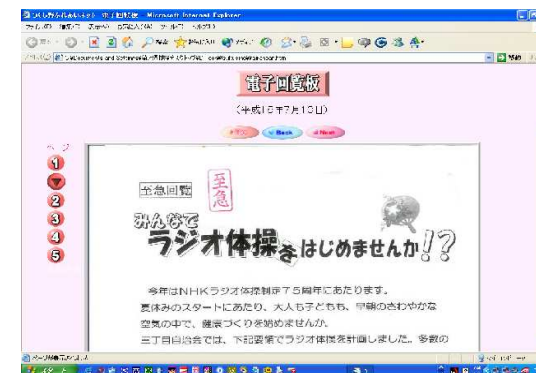
- ・提出期限などの終わった回覧板の解消

② 今週・今月の行事

- ・種々の行事への**住民の参加の促進**

③ 市役所・東京都・首相官邸HPへリンク

- ・便利帳的な使いたが出来る
- ・当然のこととして、公民館や・図書館情報などを見ることが出来る。



HPのその他の内容

- ふれあい広場

「子育てアドバイス・ページ」「不用品差し上げます」「街角スナック」「こんなこと手伝います」

「となりの仲間のアート・ギャラリー」 etc.

- 防犯・防災のページ

- スポーツ少年団

野球・サッカー・剣道

- ボーイスカウト



(3) ネット・プラザの設置

- ① この地域に住民がふれあいを図りながらITを学べる施設を設置する。
- ② ふれあい基金は住民全員がその活用の権利を有しており、求めれば与えられる環境を提供して行く必要がある。
- ③ その為には、常駐の指導員の確保が必要となる。



5. 懸賞企画案の入選

- 懸賞企画案は28点の応募がありました。
- その中から、優秀作品賞が4点、佳作4点の合計8点が選ばれました。
- 03年1月 懸賞企画案の表彰式が執り行われました。



6. 「ふれあい基金運営委員」立候補

- 03年1月、懸賞論文の表彰式のあと、町内会長やその関連の方達から、4月からの改選される「ふれあい基金運営委員」に是非とも立候補して欲しいとの要請がありました。
- 規約では立候補制になっているので、形だけでもお願いしたいとのことでした。

定年後に「地域での貢献」を生活信条とした私ですから、そしてまた「つくし野ふれあいネット」を実現したいとの思いもあり喜んでお受けいたしました。



7. 「住民参加のWG」がスタート

- 住民参加の新たな企画案作り
4月からの新「ふれあい委員会」の中で、実行案の作成のためのワーキンググループを住民から募集することを決定し、7月20日説明会を行いました。
住民の反応は意外と低く、参加者は19名にとどまった。
- 各グループへの参加者
「ふれあいコミュニティ」 8名
「ふれあいネット」 5名
「ふれあいイベント」 6名
- 「ふれあいネット」グループへの参加は5名と一番少なく、しかも当日不参加のため当方から懸賞企画案提出者に連絡し参加を要請して加入してもらった。



8. 「ふれあいネット」WGの仕事

- IT関係の応募作品は3点。
 - ①「つくし野ふれあいネット」の創設
 - ②つくし野フリースポット計画
 - ③つくし野IT化計画

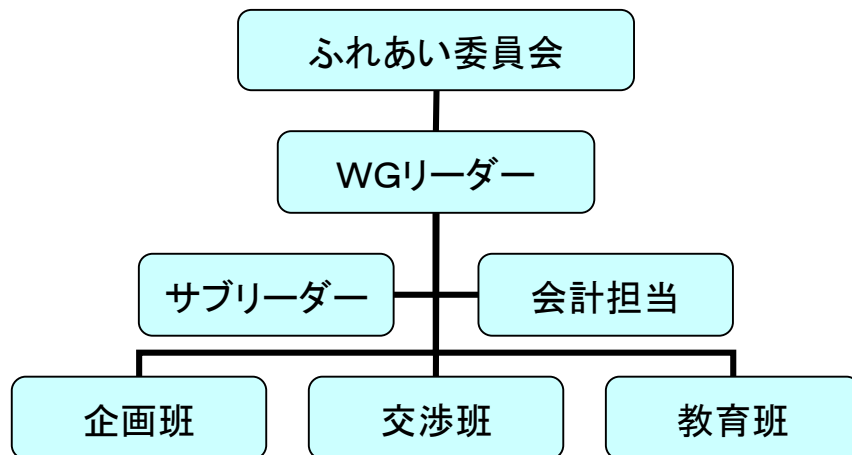
- すべてに共通な事項は
 - ①地域ホームページ作成
 - ②ネット・プラザ(PC利用室)の設置

- 今後の方向
応募作品を参考としてHP作りの実行案を作成する。

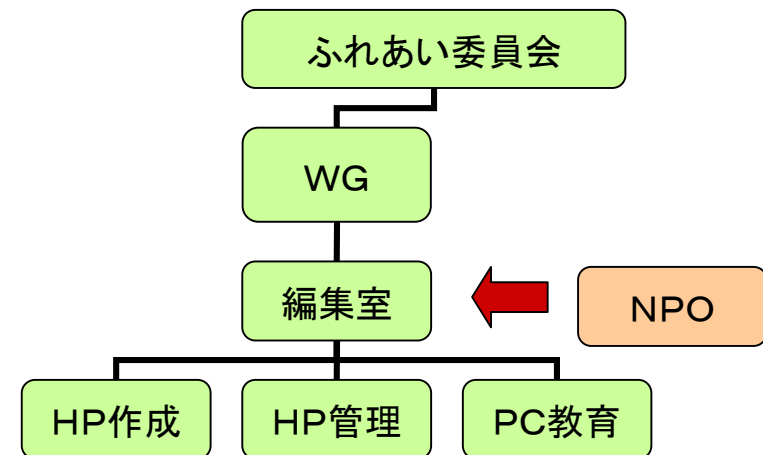


9. WGとコミュニティ・ビジネスの関係

実行企画案作成



HPの制作・管理



1. 実行企画案の作成までがワーキング・グループ(WG)の仕事である。
2. その実行企画案を元に、HPの作成業務・完成後のHPの更新・管理などを編集室(現実にはNPOなどに委託)で行う。
3. このHPを永続的に継続管理するにはNPOなどへの委託が欠かせない。



11月1日

10. 「つくし野センター祭り」で公開を決定！

- 第2回目(03. 7. 28)のWG会議で、完成スケジュールの検討をしたが、11月1日～2日に行われる「つくし野センター祭り」までに完成し、展示会場でのデモを行いPRに務めることに決定した。
- したがって、そのスケジュールに合わせて実行案の作成→ふれあい委員会の承認→町内会定例会(役員会)での承認が必要となる。
- ただ、「ネット・プラザ」の開設等は「ふれあいコミュニティ」のWGとの連携で実行する必要がある、今後解決してゆかねばならない。

終わりに

- いまだホームページが完成したわけではありませんが、その先がようやく見えてきました。
- 懸賞企画案の募集が始まって丁度一年。地域のお役に立ちたいと思って始めたこのホームページ作りを通して、いろいろな方とお会い致しました。貴重な数々の体験です。
- 地域活性化のためには、地域の人達が担い手のコミュニティ・ビジネスの立ち上げが必要です。この「ふれあい基金」に携わっている多くの方達のご理解も得られてました。
- この一つの成功体験を元に、地域各地に広げられればとひそかに期待を致しております。